TOKYO BAPTIST CHURCH 東京バプテスト教会
Weekend Message
週末メッセージが聞けます http://tokyobaptist.org/sermons/

真実のベル　真実による自由
ガラテヤの信徒への手紙 2:1-21

2022 年 12 月 17 日&18 日
ジェシー・セザリオ 牧師

ごあいさつ

今日参加している皆さん、おはようございます。TBC 西東京、TBC 三郷、スーバパブテスト教会、トンガバプテスト教会のみなさんも。今日、皆さんが主である神と救い主イエス・キリストの福音の真実にある自由を経験しますように。

はじめに

ガラテヤの手紙は「クリスチャンの自由の大憲章」とも知られていますが、今日はその学びを続けます。聖書の根本的な教えで、イエス・キリストを通してどのように自由を得るのかを示してくれます。

また、このメッセージのタイトルも思い出してください。「真実のベル」です。ガラテヤの信徒への手紙は、パウロはガラテヤの教会を目覚めさせ、キリストにある自由を損なう深刻な問題に気づかせるためのアラームのような手紙です。

御言葉は聖霊の働きによって書かれ、ガラテヤの教会だけでなく現代の私たちにも語りかけています。当時も今も私たちの人生に当てはめることができることを忘れないでください。

私の願いと祈りは、私たちが真実によってどのように自由になるか、主イエス・キリストの真の福音を通して学ぶことです。

祈りましょう（主が御言葉によって真実に導いてくださるように）

POLY-FOLLY（複数の愚かな考え方）な福音 – ガラテヤ 2:1-5

[1] その後十四年たってから、私はバルナバと一緒に、テトスも連れて、再びエルサレムに上りました。[2] 都に上ったのは、啓示によるものでした。私は、異邦人に宣べ伝えている福音について、人々に、とりわけ、おもだった人たちには個人的に示しました。私が走り、また走ってきたことが無駄だったのかと尋ねたのです。[3] また、私と一緒にいたテトスでさえ、ギリシア人であるのに、割礼を強いられませんでした。[4] 忍び込んで来た偽兄弟たちがいたのに、強いられなかったのです。彼らは、私たちがキリスト・イエスにあって持っている自由を狙い、私たちを奴隷にしようとして忍び込んで来たのです。[5] 福音の真理があなたがたの内に常にとどまるように、私たちは、一時も彼らに屈服することはありませんでした。

1 章から引き続きパウロが使徒たちと会ってきた経験です。パウロは、ギリシア人のクリスチャンであるテトスでさえも、エルサレムの使徒たちに割礼も含めて、救いのためにユダヤ教の儀式をするようにとは言われなかったことを話します。

想像できますか？福音を伝え、神の恵みによって救われた相手に、主イエス・キリストがその人のために十字架で死ぬまでのことを全て説明した後に、さらに、忠実でいるためには従うべきルールが山ほどあると言うなんて。

なによりも最初に、あのおぞましく痛ましいまな板の上でうける外科処置、割礼を受けなければイエスへの新しい信仰を始められないなんて。これこそ福音としては間違っています。

ただ、ここでパウロは大切なことを 4 節と 5 節で二つ指摘しています。パウロはまず、彼らのイエス・キリストのみにある信仰によって持っている自由、次に福音の真理が正しく宣べ伝えられることについて気にしています。

なぜなら、神の力を経験するために信仰に何かを付け加えることを教えるなら、それは全て福音として間違っています。どの宗派であろうと、どんな団体に所属していようと、誰と親しくしていようと関係ありません。

覚えておいてください。**救いは神の恵みであって、信仰を通してのみあります。**

ガラテヤ 2:6-10

[6] おもだった人たちにしても――彼らがそもそもどのような者であったにせよ、私には問題ではありません。神は人を分け隔てなさいません――、実に彼らは私に何も課すことをしませんでした。[7] それどころか、ちょうどペトロが割礼を受けた者への福音を委ねられているように、私が割礼を受けていない者への福音を委ねられていることを認めました。[8] ペトロに働きかけて彼を割礼を受けた者への使徒としてくださった方は、私にも働きかけて異邦人への使徒としてくださったのです。[9] 私にこのような恵みが与えられたのを認めて、ヤコブとケファとヨハネ、つまり柱と目されるおもだった人たちは、私とバルナバに交わりのしるしとして右手を差し出しました。こうして私たちは異邦人へ、彼らは割礼を受けた人々のところに行くことになったのです。[10] ただ、私たちがこれからも貧しい人たちを顧みるようにとのことでしたが、私はこのことのためにも大いに努めてきたのです。

パウロははっきりと言います。彼の内に効果的に働いたのは聖霊です。誰もが、パウロも使徒たちも新しく信じた人たちの中に聖霊の働きを見ているのです。

それはどのように見えるのでしょう。救いが証拠でした。目に見えて、各地域で異邦人が加わってクリスチャンの交わりが大きくなり、世界中に普遍的教会が増えたのです。普遍的教会が大きくなり、同時に各地域教会が小さくなりました。

パウロが救いを見たという事実は、同時に使徒たちにとって、パウロが真の福音を伝えた時に聖霊に満たされていた証拠でもありました。

どうしたら、人が救われるのが聖霊、神の力によると分かるのでしょう。
それは真の福音によってです。聖書いわく「十字架の言葉は、滅びゆく者には愚かなものですが、私たち救われる者には神の力です。」1 コリント 1:18
「愚かな」という言葉は元のギリシア語では馬鹿や愚かしいという意味の「*moria*」から来ています。
パウロは福音のメッセージをそれ以上の何かにしようなどとはしませんでした。パウロが伝えた福音のメッセージがシンプルにこれです。「キリストが、聖書に書いてあるとおり私たちの罪のために死んだこと、葬られたこと、また、聖書に書いてあるとおり三日目に復活したこと。」1 コリント 15:3-4
これが「愚かな」福音の全てです。この「愚かな」福音が多くの人々の人生を変えていたという事実は驚くべきことでした。聖霊の力が働いていたのに違いないと彼らは知っていました。
パウロはこうも言っています。「私の言葉も私の宣教も、雄弁な知恵の言葉によるものではなく、霊と力の証明によるものでした。5 それは、あなたがたの信仰が人の知恵によらないで、神の力によるものとなるためでした。」1 コリント 2:4-5
2022 年において、私達はこの事を真剣にとらえているでしょうか。要するにパウロが言うのは、人の知恵からくる納得できる言葉は、聖霊の力を示すものではない、ということです。
聖書は TBC で教えていること、伝えていることの基盤であり、権威です。福音は私たちのメッセージの中心です。

質問:

次のことを信じますか？:

- 救いは聖書の教えのみから来ている。。
- 救いは信仰を通してのみ得られる。
- 救いは恵みによってある。
- 救いはイエス・キリストによって成し遂げられた。
- 神のみに栄光がかえる。

この五つを信じる事が福音の真実の基盤となります。

裕福でも貧乏でも適用される

この真実を実証するには、あなたが誰であれ、裕福でも貧乏であっても、全員福音が必要であり、福音はあなたが裕福でも貧乏でも誰にでも与えられる神の愛だと信じることです。
忘れないでください。TBC のメンバーはそれぞれが奉仕者なのです。TBC のミニストリーは誰にでも参加するにも実践するにも機会は平等にあります。すぐ 2023 年になります。手も足も動き出さないといけません。奉仕者として、特に貧しい方々を思い出しましょう。

教会の規律か教会の一致か – ガラテヤ 2:11-19

11 ところが、ケファがアンティオキアに来たとき、責めるべきところがあったので、私は面と向かって非難しました。12 というのも、ケファは、ヤコブから遣わされた人々が来るまでは、異邦人と一緒に食事をしていたのに、その人々が来ると、割礼を受けている者たちを恐れ、異邦人から次第に身を引き、離れて行ったからです。13 そして、ほかのユダヤ人も、ケファと一緒にこのような心にもないことを行い、バルナバさえも彼らの見せかけの行いに引きずり込まれてしまいました。14 彼らが福音の真理に従ってまっすぐ歩いていないのを見て、私は皆の前でケファに言いました。「あなたは自分がユダヤ人でありながら、ユダヤ人のように生活しないで、異邦人のように生活しているのに、どうして異邦人にユダヤ人のようになることを強いるのですか。」15 私たちは生まれながらのユダヤ人であり、異邦人のような罪人ではありません。16 しかし、人が義とされるのは、律法の行いによるのではなく、ただイエス・キリストの真実によるのだということを知って、私たちもキリスト・イエスを信じました。これは、律法の行いによってではなく、キリストの真実によって義としていただくためです。なぜなら、律法の行いによっては、誰一人として義とされないからです。17 それでは、キリストにあって義とされることを求めながら、私たち自身も罪人であるなら、キリストは罪に仕える者となるのでしょうか。決してそうではない。18 もし自分で打ち壊したものを再び建てるとすれば、私は自分が違反者であると証明することになります。19 私は神に生きるために、律法によって律法に死にました。私はキリストと共に十字架につけられました。

パウロの分裂察知センサーが点滅していました。ペトロがユダヤ人クリスチャンとの食事でえこひいきをし、アンティオキアの地域の交わりから異邦人を排除したのです。
ただ、パウロが心配したのはペテロの救いではありません。パウロが一番心配したのは、異邦人が救いにはイエス・キリストへの信仰だけではなく規律や習慣に従う必要があると思い込んで道を踏み外すことでした。これは聖霊真の福音の力と信仰の一致を否定するものです。
重要なポイント: パウロはペテロも含め、アンティオキアのすべてのクリスチャンに普遍的な一致を望んでいました。
聖書は、教会内の問題について黙っていません。聖書は争いや問題、文化的な問題や違いをわきに置くように求めているのです。
WWJD（What Would Jesus Do？イエスならどうする？）というのを聞いたことがあるでしょう。私は「WDJD（What Did Jesus Do？イエスは何をした？）」というように考えています。
「しかし、私たちがまだ罪人であったとき、キリストが私たちのために死んでくださったことにより、神は私たちに対する愛を示されました。」ローマ 5:8
聖書はキリストにある兄弟姉妹との交わりの中でお互いを愛し励ますために私たちを召したのです。人を赦すこともです。たとえ相手が何をしたか自覚していなくても。
だから、ヘブライ 10:25 が教えるように、お互いと交わって励まし続ける必要があります。新約聖書の教会に倣って、赦しの中で、教会に来ること、使徒 2 章が教えるように家でスモール・グループとして集まることにコミットするべきなのです。

重要なポイント: TBCのスモール・グループは、孤立や分裂、拒絶といった今日の一番の問題に対する特効薬です。一致と赦しは密接な関係があります。

あなたは塵だから、塵に帰る

私達はパウロの言うことを枠にはめる傾向があります。義とされ、救われるのは信仰だけが必要で他には何もいらない、という事実から離れたくなる、そんな恐れを抱きがちです。

この枠をはめることによって、パウロが信仰のみによって救われることについて何を言っているのか、ただ伝統、つまりユダヤ教の律法だけを付け加えないことについて話していると決めつけてしまいます。それで、私たちは少し気を楽にするのです。なんだ、簡単じゃん。そうそう、宗教のことを忘ればいいんだよ。誰にでもできることだ。みんながそう考えたがります。

例えば、パウロは割礼の必要もないし、ベーコンやトンカツをこの先も諦めることもないと言ってるか、よかった、ありがたい、みたいな感じです。

でも、パウロは律法の反対は、宗教的な掟やユダヤ教の律法だけではなく、罪を犯さないためにこうすべきというあらゆる決まり事のことについて説明します。

私が20代後半の頃、東京へ来るときに自分の人生の目的や意味について悩んでいました。不可知論的な考え方を持っていて、神は信じるがそれ以外は何もわからないと思っていました。何かを知ることは不可能だと考えていました。しかし、何かが、今なら何かがではなく誰かがだと分かりますが、何かが私を突き動かしていました。

ある疑問が重くのしかかっていました。私を創造した神がいるのなら、どうして造っておいて死なせるのか？自分と同じくらい、つまり永遠に生きるものを創造できないなら、神としてどうなんだろう？なぜ、人間をある時点までしか生きられないような法則や決まりを定めたのだろう？

神は言いました。

「あなたは塵だから、塵に帰る。」創世記 3:19

イエスは罪によって私たちが死ぬと教えました。罪が私達を死なせるのです。しかし、罪を犯さないなんて不可能です。

イエスは山上の説教でこう指摘しています。要するに聞きたかったことは、「あなたが誰も殺していないから罪は犯していないと思うのか？誰かに対して腹を立てれば、同じだけの罪となる。」

私を最初にキリストへ導いた一つの理由は死への恐怖でした。自分が死に値することを学びました。別に背教のユダヤ人でも、殺人犯でも、それほど悪い人間でもなく、むしろ真実を話すほうが好きで、愛を持とうとし、仕事もあり、社会のためにベストを尽くしていました。

それでも、自分の行いで義となり、正しい人となるのは不可能でした。どれほど良いことをしても関係ありません。逃げ道はありませんでした。死んだと同然でした。

つまり、言いたいことはこれです。毎週教会に来て、5回の礼拝の全てに奉仕し、毎週スモール・グループに参加し、神学校に通い、1日4時間YouTubeでクリスチャンの礼拝メッセージを聞き、あらゆる著名なクリスチャンの本を読み、周りの人に親切にし、両親や配偶者に献身し、教会員としても熱心に働き、権威に従順であるかもしれません。

ですが、どれも神によって義とされる資格にはなりません。

私が気付かなかったのは、死こそが自分の問題の解決策だということでした。十字架の愚かさです。死で始まり、死が命をもたらします。

ローマ 6:11a「このように、あなたがたも、自分は罪に対しては死んだ者であり、神に対してはキリスト・イエスにあって生きている者だと考えなさい。」

自分が罪人であり救い主が必要だと分かっている私たちのために、キリストが死に、埋葬され、蘇り、父の右の座に完全な権威と力をもって座っています。

それで、キリストにある信仰を持ち、福音の各段階においてキリストと結びついています。

1. 私たちは、罪深い自分自身に対して死ぬと、キリストと共に十字架に掛かり、キリストの死によってキリストと結ばれます。
2. 私たちは、イエスの弟子として従いバプテスマを受けと交わりを持つ時、キリストの埋葬によってキリストと結ばれます。
3. 私たちは新しく生まれ変わった時、キリストの復活によってキリストと結ばれます。
4. 私たちは今、そしてこの先ずっと聖霊の力によって生きながら、キリストの勝利と権威、力でキリストと結ばれます。

本当の死は、自分が死んだ人のように、捧げるものが何一つもないと分かった時です。ヨナのように墓場から声を上げ、神の恵みを乞い、救いと永遠の命を求めることしかできません。

真実による自由 – ガラテヤ 2:19-21

19 私は神に生きるために、律法によって律法に死にました。私はキリストと共に十字架につけられました。20 生きているのは、もはや私ではありません。キリストが私の内に生きておられるのです。私が今、肉において生きているのは、私を愛し、私のためにご自身を献げられた神の子の真実によるものです。21 私は神の恵みを無駄にはしません。なぜなら、もし義が律法を通して得られるならば、キリストの死は無駄になってしまうからです。

あなたは人間であるために、何かしていますか？自分の親の子供であるためには、何かしていますか？

その答えは、神の子としているのと同じです。私たちは血縁でもなく、肉体の意志でもなく、人の意志でもなく、神の意志によって神の子です。どうやって？イエスの名において信じる事です。

また、クリスチャンになるために、様々なことをする必要がある、クリスチャンでいつづけるためにも、様々なことをする必要があるという大きな誤解があります。こうなってしまうのは、クリスチャンが自分に与えられた憐みを忘れて、赦さないからだと思います。

しかしこれが真実です: 善い行いで義とされることも、悪い行いで不義とされることもありません。

神の力で墓から蘇った死人を止められるものはありません。
これが真実において自由になる方法です。何かをしたからと言ってあなた自身の価値を上げることも下げることもありません。あなたは救われて、自由なのです。
まずは、死んで義とされ、生き返りますが、生きているのはもうあなた自身ではありません。キリストこそがあなたの内に善い行いを生み出しています。
鍵となるのは、自分自身は死んだままにして、キリストをあなたを通して生きれるようにすることです。
重要なポイント:イエスと同じ行動をしてキリストに似た者にはなれません。あなたの内にいるキリストの働きによって、キリストに似た者となるのです。
これがガラテア 2:20 と真の自由を得ることの意味です。**「生きているのは、もはや私ではありません。キリストが私の内に生きておられるのです。私が今、肉において生きているのは、私を愛し、私のためにご自身を献げられた神の子の真実によるものです。」**
パウロは「もはや」と言います。パウロはこれは既になされたことで、この先の話ではないと分かっているのです。
「私は確信しています。死も命も、天使も支配者も、現在のものも将来のものも、力あるものも、高いものも深いものも、他のどんな被造物も、私たちの主キリスト・イエスにある神の愛から私たちを引き離すことはできないのです。」ローマ 8:38-39
日々への適用:キリストにある自由とは、自分を通してキリストが生きることであり、自分が何者か、神の子であることを知ることで、信仰によって行うことです。
神の民がエジプトで虐げられていた時、彼らは行き詰まり、疲れ、くじけていました。
ヤハウェイ(神の名)はモーセに、ファラオにこのように伝えるよう命じました。**「わたしの民を去らせて、わたしに仕えさせなさい。」**モーセはこの意味がわかったので、こう言いました。「ヤハウェイがこうおおせられる。『わたしの民を去らせて、主の前に祝宴をさせなさい。』」
エジプトを去った瞬間、神の民はモーセをリーダーとして律法の元で、激動な生活をしました。
キリストが来て、本当の意味で神の力によって神の民を自由にしたとき、人々は増えて地上を覆いつくすほど繁栄しました。
神の民は小さな集団から始まり、イエスの名を讃える世界的な現象になったのです。
イエスのこの言葉に注目しましょう。**ヨハネ 14:12-14**
**「12 よくよく言っておく。私を信じる者は、私が行う業を行うだろう。そればかりか、もっと大きなことを行うであろう。私が父のもとへ行くからである。
13 私の名によって願うことを何でもかなえてあげよう。こうして、父は子によって栄光をお受けになる。14 私の名によって願うことは何事でも、私がかなえてあげよう。」**
イエスの名によって求めて待つ、これが信仰です。まず求めて、神の働きを待ち、そこで神の信仰による喜び、与えられた自由の中での成長を得るのです。神は忠実なお方なので、成し遂げられます。あなたが死んだ状態であっても。

使徒 2:21
「しかし、主の名を呼び求める者は皆、救われる。」
信仰が元であり、信仰だけが、恵み深い神を讃え祝う理由です。神が私達を自由にしたのです。神を讃えましょう。
お誘い:聖書によると、神はあなたを愛しています。もし死んでこれまでの自分の生き方を捨て、福音を信じ、イエスを受け入れる準備ができているなら、牧師の誰かにイエスを主である救い主とする決心について話してください。
主である神と救い主イエス・キリストを讃え、交わりの中で祝いましょう。

指定のない限り聖書は協会共同訳を使用しています。
聖書 協会共同訳: ©日本聖書協会
Japan Bible Society, Tokyo 2018

キリストのことをもっと知りたい
洗礼を受けたいという方はこちら
メール:cc@tokyobaptist.org
もしくは:https://t-b-c.us/cc

TBC Life 申込み
(毎週届くメールニュース)
http://t-b-c.us/tbclife

SG レッスンの PDF
https://t-b-c.us/sg5122jp

オンライン献金
http://t-b-c.us/give

スモールグループ参加申込み
http://t-b-c.us/sgsu